



# CDR 検索の設定

CAR には、管理者、マネージャ、および個々のユーザの 3 つのレベルのユーザに対応したレポート機能があります。CAR 管理者だけが CDR 検索を使用できます。

この章は次の内容で構成されています。

- ユーザの内線による CDR の検索の設定 (P.8-2)
- ゲートウェイによる CDR の検索の設定 (P.8-3)
- コール終了原因による CDR の検索の設定 (P.8-5)
- コール終了の詳細の表示 (P.8-6)
- コールの優先レベルによる CDR の検索の設定 (P.8-7)
- 迷惑呼による CDR の検索の設定 (P.8-9)
- 関連トピック (P.8-10)

## 始める前に

Cisco CallManager のサービスパラメータ CDR Enabled Flag と Call Diagnostics Enabled を true(イネーブル) に設定して、システムが CDR データと CMR データを生成できるようにしてください。システムのデフォルトでは、これらのサービスパラメータはディセーブルになっています。これらのサービスパラメータの詳細については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

すべての CAR レポートが CDR データを使用します。レポートの生成材料となる CDR データは、必ず最新のものにしてください。デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時から午前 5 時までロードされます。ただし、ロードする時刻、間隔、期間は必要に応じて設定できます。詳細については、P.3-8 の「システムスケジューラの設定」を参照してください。

## ユーザの内線による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがユーザの内線による CDR の検索機能を使用します。

この項では、ユーザまたは内線を基準として CDR データの詳細を表示する方法について説明します。ユーザ名および内線を基準として、CDR データを検索できます。同じ検索でユーザと内線を両方とも指定すると、検索範囲を絞ることができます。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** CDR > Search > By User/Extension を選択します。

CDR Search by User Extension ウィンドウが表示されます。



(注) 「!」や「X」などのワイルドカードパターンを入力して内線を検索できます。「!」は、各桁が 0～9 で構成される n 桁の数字を表し、「X」は 0～9 の範囲の 1 桁の数字を表します。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- 内線を基準として CDR を検索するには、内線番号を Add Extension フィールドに入力し、**Add Extension** ボタンをクリックします。
- ユーザを基準として CDR を検索するには、**Search Extension(s) based on User(s)** リンクをクリックし、姓または名の最初の何文字かを First Name フィールドや Last Name のフィールドの一方または両方に入力して、**Search** ボタンをクリックします。結果が表示されたら、レポートに含める結果の隣にある **Select** リンクをクリックします。**Close** ボタンをクリックします。

内線が Selected Extension(s) ボックスに表示されます。



(注) 項目をレポート条件ボックスから削除するには、**Remove Extension(s)** ボタンをクリックします。**Remove All Extensions** ボタンをクリックすると、レポート条件ボックスからすべての項目を削除できます。

**ステップ 3** 指定したユーザまたは内線の CDR データを表示する期間の日付範囲を選択します。

**ステップ 4** OK ボタンをクリックします。

CDR-CMR Search Results ウィンドウが表示されます。検索結果が 100 レコードを超える場合は、結果を切り捨てることを示すメッセージが表示されます。

**ステップ 5** CMR データを表示するには、**Others** ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、**View** ボタンをクリックします。

**ステップ 6** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」の手順に従います。

### 追加情報

P.8-10 の「関連トピック」を参照してください。

## ゲートウェイによる CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがゲートウェイによる CDR の検索機能を使用します。

この項では、特定のゲートウェイ タイプを基準として、または選択したルート パターンを使用するゲートウェイを基準として CDR データを検索する方法について説明します。



### 注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混在している時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

### 手順

**ステップ 1** CDR > Search > By Gateway を選択します。

CDR Search by Gateway ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- システム内に設定されているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで **Gateway Types** をクリックします。
- ツリー構造を展開し、選択可能なゲートウェイのタイプを表示するには、Gateway Types の隣にあるアイコンをクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターン / ハント パイロットを使用するゲートウェイを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで **Route Patterns/Hunt Pilots** をクリックします。設定済みのルート パターン / ハント パイロットに関連付けられているゲートウェイが表示されます。
- ツリー構造を展開し、選択可能なルート パターン / ハント パイロットを表示するには、Route Patterns/Hunt Pilots の隣にあるアイコンをクリックします。



### (注)

ウィンドウの左側のコラムで Route Patterns/Hunt Pilots ボックスにルート パターン / ハント パイロットの名前の一部を入力して、特定のルート パターン / ハント リストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン / ハント リストを検索します。

## ■ ゲートウェイによる CDR の検索の設定

**ステップ 3** リストからゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイ名が List of Gateways ボックスに表示されます。



**(注)** List of Gateways ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

**ステップ 4** List of Gateways ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



**(注)** 1 度に最大 15 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。

**ステップ 5** 選択されたゲートウェイを Selected Gateways リスト ボックスに移動するには、下矢印アイコンをクリックします。

選択したゲートウェイが、Selected Gateways ボックスに表示されます。

**ステップ 6** CDR データを検索する期間の日付および時間の範囲を選択します。

**ステップ 7** **OK** ボタンをクリックします。

CDR-CMR Results ウィンドウが表示されます。検索結果が 100 レコードを超える場合は、結果を切り捨てることを示すメッセージが表示されます。

**ステップ 8** CMR データを表示するには、**Others** ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、**View** ボタンをクリックします。

**ステップ 9** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[P.5-15](#) の「レポートのメール送信」の手順に従います。

---

#### 追加情報

[P.8-10](#) の「関連トピック」を参照してください。

## コール終了原因による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがコール終了原因による CDR の検索機能を使用します。

この項では、コールの終了原因に関する情報を検索する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** CDR > Search > **By Cause for Call Termination** を選択します。

Cause for Call Termination ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** コールの終了原因を検索するには、コールの終了原因のリストで、原因を強調表示します。



### ヒント

キーボードの Ctrl キーを押しながら原因をクリックしていくと、複数の原因を選択できます。Shift キーを押しながらすべての原因をクリックしていったら、リスト内のすべての原因を選択することもできます。

**ステップ 3** 必要な原因が強調表示された状態で、Selected Call Termination Causes ボックスの上にある下矢印アイコンをクリックします。

選択した原因が Selected Call Termination Causes リスト ボックスに表示されます。

**ステップ 4** CDR データを検索する期間の日付および時間の範囲を選択します。

**ステップ 5** OK をクリックします。

Call Termination Details ウィンドウに、レポートが生成されたときのレポート基準とともに、所定の期間に発信されたコールの合計数、および選択した原因コードごとのコール レッグの数とコール レッグの割合 (%) が表示されます。

**ステップ 6** CDR を表示するには、[P.8-6 の「コール終了の詳細の表示」](#)を参照してください。

### 追加情報

[P.8-10 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## コール終了の詳細の表示

この項では、コール終了の詳細を表示する方法について説明します。

### 始める前に

P.8-5 の「[コール終了原因による CDR の検索の設定](#)」の手順に従って、Call Termination Details ウィンドウを表示します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Select CDRs フィールドで、表示する個々の CDR の横にあるチェックボックスをオンにします。リストに含まれているすべての CDR を表示する場合は、Select CDRs チェックボックスをオンにします。表示する CDR の選択が終了したら、**View CDRs** をクリックします。

CDR-CMR Search Results ウィンドウが表示されます。

このウィンドウから **Others** リンクと **View** リンクをクリックすると、メディア情報および CDR-CMR ダンプ レコードを表示できます。CDR 検索結果レポートの見方については、[P.10-21 の「CDR の検索の結果について」](#)を参照してください。

- ステップ 2** レポートを電子メールで送信するには、**Send Report** をクリックし、[P.5-15 の「レポートのメール送信」](#)で説明している手順に従います。
- 

### 追加情報

[P.8-10 の「関連トピック」](#)を参照してください。

## コールの優先レベルによる CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがコールの優先レベルによる CDR の検索機能を使用します。

この項では、コールの優先順位を基準としてコールを検索する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** CDR > Search > By Call Precedence Level を選択します。

CDR Search by Precedence Levels ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Select Precedence Levels で、表 8-1 の説明に従って、検索するコール優先レベルのチェックボックスをオンにします。

表 8-1 コールの優先レベル

音声品質	説明
Flash Override	MLPP コールにおける最高の優先順位設定。
Flash	MLPP コールにおける上から 2 番目の優先順位設定。
Immediate	MLPP コールにおける上から 3 番目の優先順位設定。
Priority	MLPP コールにおける上から 4 番目の優先順位設定。
Routine	MLPP コールにおける最低の優先順位設定。



(注) すべての優先レベルのチェックボックスをオンにするには、**Select All** をクリックします。すべてのチェックボックスをオフにするには、**Clear All** をクリックします。

**ステップ 3** From Date フィールドで、CDR 検索範囲の開始点となる日時を選択します。

**ステップ 4** To Date フィールドで、CDR 検索範囲の終了点となる日時を選択します。

**ステップ 5** OK をクリックします。

Call Precedence Details ウィンドウが表示され、コールの優先レベルと値、コール レッグの数、およびコール レッグの割合 (%) が示されます。

**ステップ 6** Select CDRs column カラムで、確認する CDR のチェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** View CDRs をクリックします。

CDR-CMR Search by Precedence Levels - CDR-CMR Search Results ウィンドウが表示されます。検索結果が 100 レコードを超える場合は、結果を切り捨てることを示すメッセージが表示されます。

**ステップ 8** CMR データを表示するには、**Others** ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、**View** ボタンをクリックします。

**ステップ 9** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、**Send Report** をクリックし、[P.5-15](#) の「レポートのメール送信」の手順に従います。

---

#### 追加情報

[P.8-10](#) の「関連トピック」を参照してください。

## 迷惑呼による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけが迷惑呼による CDR の検索機能を使用します。

この項では、迷惑呼を検索する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** CDR > Search > Malicious Calls を選択します。

CDR Search for Malicious calls ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- Select Extension(s) ボックスで、Extension フィールドに内線を入力し、**Add Extension** をクリックします。  
ユーザの内線が Selected Extension(s) ボックスに表示されます。
- ユーザの内線を検索するには、**Search Extension(s) based on User(s)** リンクをクリックし、姓または名の最初の何文字かを First Name フィールドや Last Name のフィールドの一方または両方に入力して、**Search** ボタンをクリックします。結果が表示されたら、レポートに含める結果の隣にある **Select** リンクをクリックします。ユーザに関連付けられている内線番号が、Selected Extension(s) ボックスに表示されます。**Close** ボタンをクリックします。



(注) 内線を削除するには、削除する内線を選択し、**Remove Extension(s)** をクリックします。すべての内線を削除するには、**Remove All Extensions** をクリックします。

**ステップ 3** CDR データを検索する期間の日付および時間の範囲を選択します。

**ステップ 4** **OK** をクリックします。

CDR-CMR Search Results ウィンドウが表示されます。検索結果が 100 レコードを超える場合は、結果を切り捨てることを示すメッセージが表示されます。

**ステップ 5** CMR データを表示するには、**Others** ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、**View** ボタンをクリックします。

**ステップ 6** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、P.5-15 の「レポートのメール送信」の手順に従います。

### 追加情報

P.8-10 の「関連トピック」を参照してください。

## 関連トピック

- [CDR の検索の結果について \(P.10-21\)](#)
- [メディア情報 \(P.10-22\)](#)
- [CDR および CMR のダンプ テーブル \(P.10-22\)](#)
- [レポートのメール送信 \(P.5-15\)](#)
- [ユーザの内線による CDR の検索の設定 \(P.8-2\)](#)
- [ゲートウェイによる CDR の検索の設定 \(P.8-3\)](#)
- [コール終了原因による CDR の検索の設定 \(P.8-5\)](#)
- [コール終了の詳細の表示 \(P.8-6\)](#)
- [コールの優先レベルによる CDR の検索の設定 \(P.8-7\)](#)
- [迷惑呼による CDR の検索の設定 \(P.8-9\)](#)